



インフルエンザが流行ってきました。温かい飲み物で暖をとる際に、一緒に本も手に取ってみてはいかがでしょうか。

今この一冊

No. 004

このコーナーは船高図書館司書が「今が紹介のしどき！」と思った本を紹介していくコーナーです。

先日行われたセンター試験・国語に「玉水物語」という古典文学が出題されました。

美しい姫君に一目ぼれをした狐が、もう一度姫君に逢いたいと人間の娘に化けます。やがて姫君に仕えることになった娘は、姫君に「玉水」という名前をつけられ、大変気に入られます。しかし姫君の入内が決まると、自分の正体や恋心などを綴った別れの手紙を残して消えてしまう……。というちょっと切ないお話です。

現代の小説や漫画、映画などと比べても劣らない設定とストーリーに「古典って素晴らしい！」という声が多数上がり、話題になりました。

そこで今回ご紹介するのは『御伽草子』という物語群です。



『御伽草子』は鎌倉時代末から江戸時代にかけて成立した絵入りの短編物語で、400編以上が存在すると言われています。「玉水物語」もこの中の一編です。「一寸法師」や「浦島太郎」などの有名な昔話のほか、「酒呑童子」や「玉藻前」といったアニメやゲームに登場するキャラクターも、この『御伽草子』で語られています。

残念ながら「玉水物語」はなかなか紙媒体ではお目にかかれませんが、インターネット上に原文や現代語訳が掲載されているので、ぜひ検索して読んでみてください。

私の一文

PN みゆ

「これが、俺の、ラストゲームだ。」(『ラスト・ゲーム』かな 著/スターツ出版)

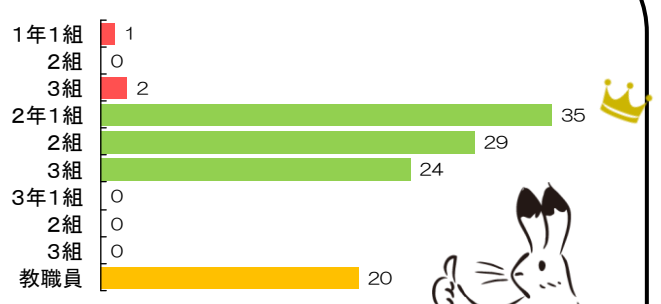
高校3年生の元也は、最後の試合を目前に控えたバスケット部部長。女バス部部長の麻子とは、なんとなく意識し合う間柄。そんな時、バスケットを教えてくれた大好きな父親に初めて反抗的な態度をとってしまう。謝ろうとした翌日、父親は還らぬ人となり…。

元也は絶望の淵から這い上がることができるのか。

「これが、俺の、ラストゲームだ。」

この一文にこめられた思いはどのようなものなのか、少し考えてもらいたい。

クラス別貸出数(1月)



3年生への貸し出しは終了しました。3年間のご利用ありがとうございました。

